

# 令和3年度

## 第2回 印西市在宅医療・介護連携、

### 認知症対策推進会議

### 書面開催結果

日時：令和4年1月19日（水）資料発送（2月4日（金）意見等返送締切）

意見聴取委員13名

氏名	備考
河内 雅章	医療関係者の代表
飯塚 真司	医療関係者の代表
永井 美奈子	医療関係者の代表
佐久間 郁美	医療関係者の代表
杉山 光枝	医療関係者の代表
結城 みつ子	介護支援専門員の代表
蓮實 篤弘	介護関係者の代表
吉川 貴雄	介護関係者の代表
伊奈 千春	介護関係者の代表
山崎 真吾	印西地区消防組合の代表
村田 純子	認知症看護認定看護師
筒井 慈子	認知症コーディネーター
吉橋 崇	地域包括支援センターの代表

事務局：印西市福祉部高齢者福祉課包括支援係

内容

- (1) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和3年度進捗状況及び令和4年度事業（案）の全体について 資料1-1、1-2、1-3
- (2) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和4年度事業（案）中の①について 資料1-1、1-2、1-3

- (3) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和4年度事業  
(案)中の②について 資料1-1、1-2、1-3
- (4) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和4年度事業  
(案)中の③について 資料1-1、1-2、1-3
- (5) 「介護と医療サポートガイド(案)」について 資料2
- (6) その他ご意見

- (1) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和3年度進捗  
状況及び令和4年度事業(案)の全体について 資料1-1、1-2、1-3

●意見の有無：「ある」4件、「ない」9件

【D委員】コロナによって開催できなかった研修会も、実施できる形を考えることはよいことだと思います。目指す姿を達成するにはやはり知識を持つこと、それを共有し広めることがどの課題においても必要だと思います。“コロナが収束したら”ではなく、“with コロナ”として来年度は考えていくことにする考えが良いと思いました。

【E委員】コロナウイルス対応のために階差できない会議や研修会もあったが、課題は絞られてきていると捉えている。来年度の市民への啓もう活動がポイント、専門職の学習(講座)についてのテーマは、『認知症対応』や『終末期対応』がいいと思う。医療と介護の共通のツールとして、ケアマネのアンケートをもっと深めて、具体的に得たい情報でツールを作成し、病院側に投げかけてみてもよいと思う。また、退院時共同指導の場面に参画する努力も必要。

【H委員】今後も予想されるコロナ禍での会議開催の方法や各業種間での集まりなどの考え方の検討が必要。

【K委員】研修について、アンケートで『内容によって参加』の結果が多いと思います。希望する内容が具体的だと企画しやすいと思う。希望と周知したいこととのすり合わせができるとよいと思う。経験上、概論より各論の希望があることの方が多い。事例を通しての研修が一番伝わりやすいと思うが、対象が限定されるかもしれない。事例検討がタイムリーに多職種でできるとよいと思う。

サポートガイド・エンディングノートはわかりやすくよいと思った。

- (2) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和4年度事業  
(案)中の①について 資料1-1、1-2、1-3

●意見の有無：「ある」4件、「ない」9件

【D委員】医療機関としてぜひ参加したいです。「医療と介護の連携について」は特に参加を希望します。おそらく在宅と医療で考える部分が違うことが多く、そもそもそれを“知らない”のが現状だとアンケートを見て思いました。お互いが知らないことを知るために、やはり具体的なケースカンファがいいのではないかと思います。

【E委員】今は医療保険でも介護保険でもケアマネによるトータルケアマネジメントの実現に尽きると思う。ケアマネのアンケートに記載されていた積極的な意見に期待し、具体的な研修(在宅での治療・看護管理・介護ケア・リハ目的)などを実践し、ケア

マネ自身が終末期が見えるようになることが必須だと思う。また、繰り返しの学びが必要。

【L委員】ケアマネ研修や認知症介護実践者研修、管理者研修等も今後の感染状況が不透明なことからオンライン受講よなっています。環境が整っているならば開催方法の選択肢の一つにWeb会議の検討をしたらどうでしょうか。

【M委員】以前、他の自治体の「顔の見える関係作り会議」を見学に行った際に、医師（病院・診療所）、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、病院地域連携担当職員、看護師（訪問看護・病院・診療所）、介護支援専門員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護サービス事業所職員、介護施設職員、消防、市職員、民生委員等幅広く集まり、ミニ講座とKJ法を使ってのグループワークを行っていました。顔が見える関係を作ることで、日ごろから連携しやすく質の高い支援につながるという目的のもとに開催をしていました。このような会議を単発ではなく継続的にすることで関係性ができ、関係性ができることで連携が強まり、連携の裾野も広がるのではないかと考えます。

(3) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和4年度事業  
(案)中の②について 資料1-1、1-2、1-3

●意見の有無：「ある」5件、「ない」8件

【D委員】市民が知りたい内容は何が多いのでしょうか。発信したい情報に近いものがあればその内容がいいのではないかと思います。

開催方法はWEBがよいと思いますが、高齢の方は操作方法がわからないこともあると思うので、少人数で集まって中継で見られる場所を作るのはどうでしょうか。

【E委員】講座の方が有効的だと思われれます。具体的には専任チームを作り、要求に答えられる講座の開催があるとよいと思われれます。訪問看護の立場から他職種に講義するなら「予防・慢性疾患管理・認知症ケア・終末期対応」があります。

【H委員】多職種連携研修企画もコロナ禍での開催が困難であり、企画も止まっている状態が続いている。今の状況が落ち着かないと開催も困難だと思われる。一度研修企画の関係者での話し合いの場が設けられればと思います。

【L委員】ご家族の中には訪問診療と往診の違いも理解されていない方が多くいます。様々な事例を知り、病状により検討したいというニーズがあると感じています。

【M委員】市全体ではなく、地区や人数を絞って複数回実施する等がよいのではないのでしょうか。また、出前講座に関して申込みを待つだけでなく、既存の団体等に市から積極的に開催を働きかける等も検討できるのではないかと考えます。

(4) 資料1-1 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業の令和4年度事業  
(案)中の③について 資料1-1、1-2、1-3

●意見の有無：「ある」4件、「ない」9件

【D委員】市の広報誌に定期的にお知らせを載せたらどうでしょうか。窓口においてあるだけだと気づかないので、“ここにある”ということを知らせていく、配布をこちらからするなどを行うことも必要かと思えます。まず手に取ってもらったら、気が向

いたときに見てくれると思います。取りに来る人は興味がある人だけで、実際困る人は興味を持つことや知ろうとしていない人の方が多いと思います。

【事務局】作成が完了しましたら市の広報誌にて周知を図るとともに、関係機関にも送付し周知したいと思います。

【E委員】「介護と医療サポートガイド」は大いに活用していただきたいです。高齢者クラブや自治会、シルバー人材や民生委員さんに周知したらよいと思います。

【L委員】実際に活用された方（本人・家族）の意見を聞くことはできますか？ケアマネはリビングウィル等の意思表示を確認することもあるので、そういう時に活用できるとよいと思うので、ケアマネにさらに周知してもらうのはどうでしょうか。

【事務局】「介護と医療サポートガイド」は不特定多数の方に配布するため、活用された方の意見を伺うことは難しいかもしれませんが、ケアマネジャーに周知し、その活用について伺うことはできると考えますので、今後その方法について検討させていただきます。

【M委員】「介護と医療サポートガイド」「わたしノート」「認知症ケアパス」等を直接説明（考える・記入する等）するような機会があったらよいと考えます。

【事務局】出前講座として「終活のすすめ」「認知症サポーター養成講座」があり、すでに活用されている場合もありますが、今後とも周知・活用の場が広がるよう検討させていただきます。

#### (5) 「介護と医療サポートガイド」（案）の内容について

資料2

●意見の有無：「ある」5件、「ない」8件

【B委員】協力歯科医院一覧を以前のように歯科医師会会員と非会員に分けて表出してください。

【D委員】より具体的で市民の方が疑問に持ちそうな内容も含まれていてとてもよいと思います。このよいツールをいかに知ってもらうかだと思います。

【E委員】よくできていると思います。入門編として大いに活用し、啓もう活動にも生かせると思います。

【K委員】わかりやすかったです。

【M委員】今回医療機関については訪問系の機関のみ掲載されている点は見やすいと感じました。一方で他の医療機関が掲載されていないことが、「介護と医療サポートガイド」という題名や介護と医療の連携を考えたときにどうなのだろうかと気になりました。

【事務局】医療機関や介護事業所については、市の別の部署からも同様の情報が出ていること、今回掲載内容の見直しを行いボリュームが多くなっていることから掲載しておりませんが、「介護と医療サポートガイド」の配布時には近くに医療機関等の情報も置くこと、ホームページでは別部署のページも検索できるよう作成させていただく予定です。

#### (6) その他ご意見

●意見の有無：「ある」5件、「ない」8件

【D委員】 目指す姿を実現するためには、今年度行ってきた実績を来年度にもつなげていくことがとても大切だと思いました。より年々具体的に行って振り返り、改善していくことの繰り返しでよりよくなっていくのではと思います。お互いの考えていることを知ることが大切であると思いました。

【E委員】 事業が具体的になってきてよい傾向だと思います。

【F委員】 独居者・高齢者世帯であっても安心して自宅で必要なサービスを受け、最期まで生活できるように地域（民生委員など）や専門職等と連携し支援できたらよいと思いました。

【K委員】 認知症など認知機能低下の方たちがサポート拒否をしているケースは介入が難しいと感じています。周りの人の心配も多いが、心配を押し付けるより、本人が困っている（困っていないと言われるが、何らかの不便や困りごとが実際ああって、その場その時には困っていると感じている）ことに支援が届けば拒否が少ないと思います。その支援体制が構築できたらよいと思っています。

【M委員】 訪問診療や訪問看護、居宅介護支援事業所等市内の事業所が少なく、実際には近隣市町村の事業所に依頼しているケースも多くあると思います。そういった情報（市外）をサポートガイドに掲載する必要があるのか、また事業所が少ないと感じる部分を分析した上で課題として何かしら取り組むことができるのかなど検討していくことが必要ではないかと考えます。

以上